

## 5. 玉川の里

「卯の花」は、平安時代より和歌に詠まれ、江戸時代には短歌や俳句の歌枕にも使われた人気の花で、毎年5月中旬から6月にかけて開花します。高槻市の史跡「玉川の里」(西面(さいめ)地区)には、古くから卯の花が群生しております。

この地の卯の花は、古歌に「卯の花の玉川」と詠まれるほどで、高槻市では昭和42年(1967年)にこの「卯の花」を市民の花に選定されました。

ちなみに、玉川は16世紀頃まで高槻の南北を流れる芥川と合流していた川で、その昔、水量が豊かな川(摂津国三島の玉川)として六玉川(むたまがわ)のひとつに数えられています。現在、川沿いには小道が1km以上に渡って続いており、地元の方の散歩コース、桜並木のコースとしても親しまれています。

### 1) 高槻市の市民の花「卯の花(ウツギ)」

「卯の花(うつぎ)」は、高槻市の史跡、玉川の里(西面(さいめ)地区)に所在)に群生しています。古来、玉川の里は摂津の玉川として天下の6玉川の一つに数えられ、「卯の花」や「月」の名所として有名で、平安時代の歌道の隆盛に伴い、その歌枕として用いられました。



### 2) 芭蕉の句碑(玉川の里)

「うのはなや暗き柳のおよびごし」と刻まれた、俳人・松尾芭蕉の句碑。

芭蕉が故郷の伊賀上野(現伊賀市)から、大坂や京に頻繁に出入りしていた頃に詠んだ句。現在、玉川橋から玉川の里の小道を少し南へ行ったところに建てられているこの句碑は、天保14年(1843)に刻まれた独特な字体が特徴。高槻の玉川は、山城国、近江国などの玉川とともに、「摂津国三島の玉川」として「六玉川」のひとつに数えられ、古くから詩歌などにうたわれた景勝地。摂津国三島の玉川の里に、毎年5~6月頃に咲く「うのはな」(和名は「ウツギ」/高槻市の市民の花でもある)は、平安時代から古歌や歌枕として知られ、江戸時代にも俳句や川柳に度々登場。卯の花が白い花を咲かせる初夏に、芭蕉に想いを寄せつつ、玉川を散策するのもいいだろう。

